

白馬・小谷のごみ焼却施設は



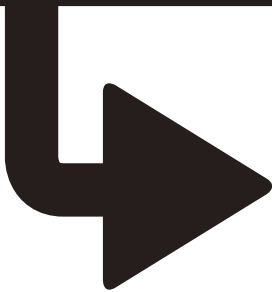
まだ使えるのに
まだローンが残っているのに
何故建てかえる必要があるのでしょうか？

飯森地区に ごみ処理施設を建てれば

- 排ガスが増えて白馬の空気が汚れる
- 子供・幼児の健康が心配
- いま問題の農産物の安全性も心配
- 景観が損なわれる
- 観光客が減る
- 活断層の直近で安全が脅かされる
- 莫大な借金を抱えて村の財政が圧迫される
- 現在でも劣る育児・教育・福祉行政がさらに悪くなる



**何もメリットはありません
負の遺産を子供たちに
残すだけです
建てかえる必要はありません**



**このまま現在の施設を使い
村民の生活と安全 及び
村の自然環境を守りましょう！**

<活動報告>.....

- 10/12 大町市の女性団体連絡協議会主催のごみ問題勉強会に、中村副会長がレポーターとして参加。
- 10/20 小谷新ごみ処理施設建設を考える会主催のごみ問題勉強会に、中村副会長がレポーターとして参加。
- 10/03 太田村長との話し合い。特に前進した内容はなく、民意の把握については住民アンケートを示唆。

環境改善活動について

“エコ”“省エネ”という言葉が日常的に使われるようになり、環境問題への関心が高まってきています。そしてエコ活動=環境改善活動がいろいろな所で推進されており、白馬でもごみの減量化や生ごみの堆肥化の活動が行なわれています。この環境改善活動の取り組み方について、基準を定めた国際規格「ISO14001 環境マネジメントシステム」があり、この規格に従って環境改善活動に取り組む団体には、審査をして認証登録されます。すでに日本全国で2万を超える団体が認証登録しており、白馬でも数社が認証登録して環境改善活動に取り組んでいます。

私はこの環境マネジメントシステムの主任審査員をしており、全国の各種団体(主に企業)の審査を担当してきました。当然審査の過程で各企業の環境改善活動にも触れますので、廃棄物を中心に改善活動の例をご紹介します。

いろいろな環境への取り組み

廃棄物削減の基本は、廃棄物の減量、再利用、リサイクルの3Rです。

- ① 端切れを少なくする等、原材料を無駄が出ないように使う(歩留り向上)。
 - ② 梱包の箱を再利用できる通い箱にして、梱包廃材をなくす。
 - ③ 軍手やウェス(汚れをふき取る布切れ)を洗濯して、何度も再利用する。
 - ④ 一度使って汚れた水や洗浄液を前洗いに利用する。汚れの程度に応じて順次使い回す。浄化・精製して再利用する。
 - ⑤ 分別を徹底して、なるべく高価な材料にリサイクルする。最後は油の代わりに燃料として利用する(サーマルリサイクル)。
- 60種類にも分別している企業もあります。
- ⑥ あるトイレトペーパーのメーカーは、周辺の市町村から牛乳パックを回収し、溶解してトイレトペーパーを作るとともに、パックの内側の薄いポリエチレンフィルムを分離し、ボイラーで燃やして工場蒸気を作り、焼却したあとの灰は、造粒して路盤材に利用しています。従って埋立て廃棄物はほとんど出していない。
 - ⑦ ある製紙会社は建築廃木材を受け入れ、分別して良い木材からパルプを生産し、その他の廃木材はボイラーで燃やして蒸気を作り、工場の生産に利用しています。廃プラを破碎したチップも燃料として購入していました。
 - ⑧ セメント会社などは、燃料として廃棄物を燃やしています。家庭ごみを燃やしている工場もあるようです。糸魚川のセメント工場も、建築廃木材、廃タイヤ、下水汚泥等を受け入れて、セメントの原燃料としています。
 - ⑨ 多くの食品会社は、生産排出物や排水処理場の汚泥を家畜飼料や堆肥に利用しており、廃棄物(単なる焼却や埋立て)はほとんど出

していません。

- ⑩ 多くの企業で焼却炉を撤去しており、コストダウンのために廃棄物の削減に努めています。
- ⑪ 最近各社はエネルギー削減というより、地球温暖化防止のためCO2(炭酸ガス)の排出削減に努めています。排出権取引も始まるようとしています。

(行政もCO2削減に取り組むべきで、ごみの焼却の削減は真っ先に取り組むべき課題だと思います)

白馬村では

このような各社の努力に接して白馬の現状を見ると、ゴミを減らすより燃やすことを優先しており、時代に取り残されていると言うか、別世界の感があります。

白馬には美しい景観、澄んだ空気という貴重な自然環境があり、この自然環境を守っていくのが我々の役割です。その役割を担うべき行政の方々が、環境保全ではなく環境破壊に手を貸そうとしているのは誠に残念です。

白馬が目指すもの

環境マネジメントシステムも、コンサルタントの作ったシステムはあまり役に立ちません。役に立つシステムは自分たちで作ったシステムです。

九州の湯布院をご存知でしょうか。この湯布院もかつては別府温泉の陰に隠れて、温泉の灯が消えそうな時がありました。落ちぶれた湯布院温泉を何とかして再興したいと、廃業寸前の温泉旅館の若い主人達を中心に、「山」「温泉」「緑」「静けさ」を柱とした長期的ビジョンを作り、ゴルフ場やマンションの建設を拒否し、自分たちで村づくりに努めた結果、「湯布院に行くときを忘れる」という「いやしの里」を実現し、今日の隆盛を生み出したとのこと。白馬のお手本になるのではないのでしょうか。

白馬村にも、すばらしい山、スキー場、温泉、花、緑、そして澄んだ空気があり、条件的には湯布院よりずっと恵まれています。焼却施設の建設計画を中止し、不毛な建設賛否の議論を止めて村づくりの議論に置換え、「むらごと自然公園・白馬」と共に「環境の白馬」「エコ白馬」をキャッチフレーズに、行政・住民一体となって自分たちの長期ビジョンを作り、活力ある白馬を目指すべきでしょう。

皆さんの「声」をお聞かせ下さいね！
 Fax: 0261-72-7465
 e-mail: info@hakuba-kaeru.com

